



2019年11月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年4月12日

上場会社名 株式会社ファンドクリエーショングループ 上場取引所 東
 コード番号 3266 URL <http://www.fc-group.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田島 克洋
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部長 (氏名) 阪本 浩司 (TEL) 03 (5212) 5212
 四半期報告書提出予定日 2019年4月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年11月期第1四半期の連結業績 (2018年12月1日～2019年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年11月期第1四半期	105	△12.8	△68	—	△71	—	△72	—
2018年11月期第1四半期	121	73.6	△21	—	△25	—	△28	—

(注) 包括利益 2019年11月期第1四半期 △73百万円(—%) 2018年11月期第1四半期 △21百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年11月期第1四半期	△1.93	—
2018年11月期第1四半期	△0.76	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年11月期第1四半期	2,975	2,208	74.1
2018年11月期	3,139	2,318	73.8

(参考) 自己資本 2019年11月期第1四半期 2,205百万円 2018年11月期 2,316百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年11月期	—	0.00	—	1.00	1.00
2019年11月期	—	—	—	—	—
2019年11月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2019年11月期の配当金につきましては、現在は未定です。

3. 2019年11月期の連結業績予想 (2018年12月1日～2019年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	2,030	74.8	195	—	190	—	140	3.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

詳細につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

期中における重要な子会社の異動に関する注記

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
 ② 期末自己株式数
 ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2019年11月期 1Q	37,492,371株	2018年11月期	37,492,371株
2019年11月期 1Q	27,500株	2018年11月期	27,500株
2019年11月期 1Q	37,464,871株	2018年11月期 1Q	37,447,871株

発行済株式数に関する注記

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績に通り等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2018年12月1日～2019年2月28日)における我が国経済は、企業収益の向上や雇用・所得環境の改善を背景に個人消費や設備投資など内需が堅調に推移することで、景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、米中間の貿易摩擦問題の長期化や中国をはじめとするアジア新興国経済の鈍化による輸出への影響が懸念されるなど、景気の先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

当社グループの主要事業が属する不動産業界では、低金利環境下での良好な資金調達環境を背景とした国内外の投資家の物件取得意欲に支えられ、不動産市場の回復は鮮明となってきましたが、その一方で、今後の新規物件の取得にあたっては、物件の取得価額と収益性のバランスを慎重に見極めることが必要となってきました。また、太陽光発電業界におきましては、長期間にわたって安定して高い利回りが期待できる点、残価リスクがほぼない点、現在の良好な資金調達環境などにより、今後は利回り商品としての需要拡大が見込まれております。

こうした状況の下、アセットマネジメント事業では、引き続きファンド運用資産残高、不動産等受託資産残高の増加に向けて、投資家ニーズに適合した魅力的な商品開発に努めております。当第1四半期連結累計期間においては、前期に設立した民泊等宿泊事業ファンドの追加募集を行いました。

また、インベストメントバンク事業では、割安な不動産物件への投資・バリューアップを行うべく国内外の物件のソーシングに努め、国内においては新規開発用の不動産取得を行いました。また、販売が前期から当期に期ずれとなった東京都大田区の新規開発物件については、リースアップした上で収益物件として販売することへと方針を変更し、そのための準備を行いました。海外不動産につきましては、米国カリフォルニア州で取得済みの複数物件についてバリューアップ施策を推進したほか、テキサス州の物件につきましても、引き続きマーケティングを進めております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は売上高105百万円(前年同期比12.8%減)、営業損失68百万円(前年同期の営業損失は21百万円)、経常損失71百万円(前年同期の経常損失は25百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失72百万円(前年同期の親会社株主に帰属する四半期純損失は28百万円)となりました。

<アセットマネジメント事業>

当第1四半期連結会計期間末において、当社グループが運用するファンド運用資産残高は165億円(一部円換算US\$1.00=110.87円)、当社グループがアセットマネジメント業務を受託している不動産等の受託資産残高は223億円となりました。

不動産ファンドにつきましては、アセットマネジメントフィー及びファンド管理報酬等を計上いたしました。証券ファンドにつきましては、外国投資信託の管理報酬等を計上いたしました。また、太陽光発電ファンド事業につきましてもアセットマネジメントフィー等を計上いたしました。この結果、アセットマネジメント事業全体では、売上高68百万円(前年同期比15.7%減)、セグメント利益0百万円(減前年同期95.2%減)となりました。

<インベストメントバンク事業>

不動産投資等部門では、保有不動産の賃料収入等により10百万円を計上いたしました。証券投資等部門では、株式売却益の計上や金融商品仲介業務による報酬等により27百万円計上いたしました。この結果、インベストメントバンク事業全体では、売上高37百万円(前年同期比7.0%減)、セグメント損失7百万円(前年同期のセグメント利益は16百万円)となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末において、資産、負債及び純資産の状況は以下のとおりであります。

（資産の状況）

流動資産は、前連結会計年度末比、販売用不動産が215百万円、未成工事支出金が10百万円増加し、一方で立替金が77百万円、現預金が244百万円減少したこと等により、全体では159百万円減少し2,325百万円となりました。

固定資産は、前連結会計年度末比、投資有価証券が3百万円減少したこと等により、全体では5百万円減少し649百万円となりました。

（負債の状況）

流動負債は、前連結会計年度末比、借入金が48百万円、未払金が17百万円減少したこと等により、全体では52百万円減少し700百万円となりました。

固定負債は、前連結会計年度末比、その他固定負債が1百万円減少したこと等により、全体では1百万円減少し66百万円となりました。

（純資産の状況）

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失72百万円を計上したこと等により、前連結会計年度末比では110百万円減少し2,208百万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間における連結業績は、上記のとおりであり、2019年1月15日付で発表いたしました連結業績予想に変更はありません。なお、今後の業績等につきましては、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年11月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	893	649
売掛金	20	17
未収入金	12	13
有価証券	105	94
営業投資有価証券	403	392
販売用不動産	693	908
未成工事支出金	49	60
立替金	115	37
その他	191	151
流動資産合計	2,485	2,325
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8	8
工具、器具及び備品（純額）	10	9
土地	402	402
有形固定資産合計	421	420
無形固定資産		
投資その他の資産	0	0
投資有価証券	113	108
その他	119	119
投資その他の資産合計	233	228
固定資産合計	654	649
資産合計	3,139	2,975
負債の部		
流動負債		
短期借入金	652	605
1年内返済予定の長期借入金	1	—
未払金	62	44
未払法人税等	5	1
賞与引当金	—	11
預り金	3	7
前受収益	13	12
その他	14	17
流動負債合計	752	700
固定負債		
その他	68	66
固定負債合計	68	66
負債合計	821	767

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年11月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年2月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,171	1,171
資本剰余金	664	664
利益剰余金	433	323
自己株式	△1	△1
株主資本合計	2,267	2,157
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	48	47
為替換算調整勘定	0	0
その他の包括利益累計額合計	48	48
新株予約権	2	2
純資産合計	2,318	2,208
負債純資産合計	3,139	2,975

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年12月1日 至2018年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年12月1日 至2019年2月28日)
売上高	121	105
売上原価	16	26
売上総利益	104	79
販売費及び一般管理費	125	147
営業損失(△)	△21	△68
営業外収益		
受取利息及び配当金	1	0
その他	0	0
営業外収益合計	1	0
営業外費用		
支払利息	3	2
資金調達費用	0	0
その他	2	0
営業外費用合計	5	3
経常損失(△)	△25	△71
特別利益		
その他	—	0
特別利益合計	—	0
税金等調整前四半期純損失(△)	△25	△71
法人税、住民税及び事業税	3	0
法人税等調整額	0	0
法人税等合計	3	1
四半期純損失(△)	△28	△72
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△28	△72

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年12月1日 至 2018年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年2月28日)
四半期純損失(△)	△28	△72
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6	△0
為替換算調整勘定	0	0
その他の包括利益合計	6	△0
四半期包括利益	△21	△73
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△21	△73

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2017年12月1日 至 2018年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	アセットマネジメント事業	インベストメントバンク事業		
		不動産投資等部門	証券投資等部門	
売上高				
外部顧客への売上高	81	37	2	121
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	81	37	2	121
セグメント利益又は損失(△)	19	18	△1	36

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

利益	金額(百万円)
報告セグメント計	36
セグメント間取引消去	7
全社費用(注)	△64
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△21

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2018年12月1日 至 2019年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	アセットマネ ジメント事業	インベストメントバンク事業		
		不動産投資等部門	証券投資等部門	
売上高				
外部顧客への売上高	68	10	27	105
セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	—	—	—
計	68	10	27	105
セグメント利益又は損失(△)	0	△13	6	△6

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

利益	金額(百万円)
報告セグメント計	△6
セグメント間取引消去	8
全社費用(注)	△70
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△68

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。